

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
354	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Weekend effects on binge drinking and homicide: the social connection between alcohol and violence in Russia. 週末の大量飲酒と殺人について：ロシアにおけるアルコールと暴行事件の社会的関連	
<b>執筆者</b> Pridemore WA.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Addiction. 2004 Aug;99(8):1034-41.	
<b>キーワード</b> アルコール、大量飲酒、殺人、ロシア、暴力行為	
<b>要 旨</b>  (背景) 新しいロシアの死亡統計データを用い同国での大量飲酒と殺人の社会的関連を検討した。	
(方法) 1994-98年のロシア・ウドムルト自治区の20-64歳の全死亡診断書を死亡曜日と死因に関して解析した。アルコール中毒による死亡を大量飲酒によるものとして集計した。記録された殺人発生時は正確と考え、一方アルコール中毒による死亡は発見されるのは翌日になってからが大多数と考え、記録された日より1日前に発生したと考えて相関係数を計算した。	
(結果) アルコール中毒死と殺人の発生日の間に強い相関があった ( $r=0.75$ )。アルコール中毒死は土曜日、日曜日に有意に多く (恐らく金曜日、土曜日の夜の大量飲酒の結果によると考えられる)、殺人は金曜日、土曜日に有意に多かった。	
(結論) ロシアでのアルコール消費量と殺人は世界でもっとも多い部類に入り、両者が関連しているとの証拠が蓄積されている。大量飲酒、ウオッカなどの蒸留酒が好まれること、大量飲酒に対する社会認容性が高いことなどの社会・文化的要因が暴行事件を増加させている可能性がある。アルコール中毒死と殺人の発生曜日に高い相関があることはこれら2者間に社会的関連があることを間接的に証明している。これらは因果関係の証明にはならないが、増加の一途をたどるこの問題に関する情報と合わせて解釈すればロシアにおけるアルコール消費と殺人頻度が関連することをさらに支持することとなり、ロシア独自の社会的要因が介在していることに対する予備的証拠となる。	